

2025 年 4 月 1 日

各 位

会 社 名 株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー
 代表者名 代 表 取 締 役 白 岩 直 人
 (東証 プライム市場・コード:7172)
 問合せ先 取締役 管理本部長 杉 本 健
 (TEL. 03-6550-9307)

プライベート・エクイティ投資事業における新たな投資について ～リバーフィールド株式会社～

当社グループは、2015 年8月より、プライベート・エクイティ投資事業を開始し、バリューアップ投資を行っております。これまでに 10 社の IPO を実現いたしました。(※)

今般、当社グループが運営するファンドの新たな投資先として、リバーフィールド株式会社(以下、リバーフィールド)の株式を取得いたしましたのでお知らせいたします。

※ これまでの当社グループ投資実績:<https://www.jia-ltd.com/business/privateequity/>

記

1. 投資の目的

リバーフィールドは、2003 年より東京工業大学と東京医科歯科大学を中心とした研究室でロボット開発の研究を行い、2014 年に起業した国立大学発ベンチャー企業です。

- 世界初の空気圧駆動型内視鏡ホルダロボット「Saroa」、コンパクトタイプの「IvyA1」
- 眼球内を直接観察できる機能を把持する眼科手術支援ロボット「OQrimo」、
- 術者のヘッドセンサの機能により、直感的な操作が可能な内視鏡ホルダロボット「EMARO」

など、精密なだけではない、人の手のやさしさを持った医療ロボットを提供しております

当社グループは、これまでのリバーフィールドの実績と、事業の公共性・公益性を重んじながら、ロボットのチカラで社会の課題解決を目指す「大学研究室で培われた技術で社会的課題の解決と新しい価値の創出を」という企業理念に共感し、同社の事業拡大のサポートをすべく、株式を取得することといたしました。

2. リバーフィールドの概要

(1) 名称	リバーフィールド株式会社
(2) 所在地	東京都港区赤坂 8-1-22 NMF 青山一丁目ビル 4F
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 只野 耕太郎
(4) 事業内容	手術支援ロボット等の医療機器研究開発および販売
(5) 設立	2014 年 5 月 20 日
(6) URL	https://www.riverfieldinc.com/

3. 今後の業績に与える影響

現時点において、本件による 2025 年 12 月期の業績に与える影響は軽微です。

本件に関する問合せ先
広報・IR室
TEL:03-6550-9307

以 上

【参考】リバーフィールド 事業紹介（ホームページより引用）

■ テクノロジーの基本理念

「空気圧制御技術でロボット開発に革新を

■ 主なプロダクト

Sarao(サロア)	<u>世界初の「力覚」を再現した、手術支援ロボット</u> Sarao は、世界で初めて「力覚」を再現することに成功した、低侵襲外科手術支援ロボット。 空気圧制御による柔軟かつ繊細な駆動により、力覚を直接感じる事が出来るため、遠隔操作でありながら実際に自分の指で手術を行っているのと同様の感覚で施術を行うことが可能。
OQrimo(オクリモ)	<u>術者に第三の手を与える眼科手術支援ロボット</u> 眼球内を直接観察できる眼内内視鏡や眼内照明ライトガイドを把持するロボットシステム。 このロボットを使用することにより、術者は両手を手術鉗子の保持に使え、かつ長時間の手術でも内視鏡画像やライト照射点が揺れることなく安全な手技が可能。
IvyA1(アイヴィ)	<u>小型化コンパクトを追求した内視鏡ホルダロボット</u> 従来機の約 3 分の 1 のコンパクト設計を実現。術者とロボットの干渉が低減され、快適な空間で手術を進行することが可能。 部品点数が削減され、従来機よりもコストを低減することを可能とした。 また、スムーズなセッティングを追求し、不動点設定が不要な機能を搭載することで、術者は位置合わせを行わずに常に内視鏡を腔内に挿入するだけで操作が可能。 空気圧駆動によるなめらかな動きと良好な視野を提供し、執刀医とロボットが協調して手術ができることを追求した内視鏡ホルダロボット。
EMARO(エマロ)	<u>執刀医自ら意のままに内視鏡操作を実現する内視鏡ホルダロボット</u> 術者の頭部に装着したヘッドセンサの動きと連動してホルダが動作し、直感的な操作が可能。 長時間の手術でも内視鏡視野がぶれることなく安定した視野を提供。操作はマニュアルスイッチを押すことで、手で直接視点操作することも可能。

■過去ニュースリリース引用

「触覚」を有する手術支援ロボットシステム「Saroa サージカルシステム」を用いた泌尿器科領域での初症例に成功（2023 年 8 月 18 日）

「Saroa サージカルシステム」(以下「Saroa」)を用いた泌尿器科領域での初症例を、慈恵医大柏病院で 2023 年 8 月 16 日に実施し、無事に手術が終了

(引用) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000084908.html>

「Saroa」は、独自の空気圧精密制御技術を活かし、手術に使用する鉗子にかかる力を検出し、執刀医に触覚(力覚)をフィードバックする機能を搭載しています。従来にはなかった触覚(力覚)を有することにより、自分の手で直接手術しているような感覚が得られ、手術の精度がより高くなると期待されています。

低軌道衛星通信を活用した移動型遠隔手術システム 世界初の実証実験に成功(2024 年 7 月 31 日)

大阪府八尾市の八尾徳洲会総合病院において、低軌道衛星通信を用いた移動型遠隔手術システムの実証実験(以下、「本実証」)を世界で初めて実施

(引用) <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000084908.html>

衛星通信による遠隔手術は古くから理論的には可能とされてきましたが、これまでは試作ロボットと高額な衛星通信システムを用いた実験レベルにとどまっていました。本実証は、薬事承認された手術支援ロボットと、安価で常用利用が可能な衛星通信サービスを活用し、世界で初めて「実用レベルで」遠隔ロボット手術の実現可能性を検証したものです。

災害が多く、インフラの壊滅的被害により、地上通信網が使用不能となりえる我が国において、このような取り組みを世界に先駆けて実施できたことは大変意義深いと考えます。

以 上